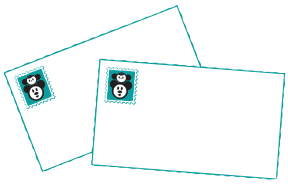

# Letters

レターズ / 加入者や保護者の皆さんから寄せられたお便りをご紹介します。

## 滋賀県
## Y・Mさん（父）

いつもお世話になりありがとうございます。スマイルズもいつも楽しく読ませていただいています。

次のスマイルズが送られてくる頃には、妻が亡くなって4年が経ちます。あっという間の4年間でした。事故のあった当時、子どもたちは小学校2年になってすぐで、母親の亡くなったことをどう伝えればいいのかわからなかったのを思い出します。この4年間は目の前のことをこなすのに精一杯で、地に足つかず何かフワフワした感覚でした。でもようやく最近周りが見えてきて、少し落ち着いてきたように感じます。それもナスバさん等、皆様のご支援があったからこそだと思います。本当にありがとうございます。

## 神奈川県
## A・Hさん（加入者）A・Rさん（母）

♡加入者さまより

長い期間 給付金をありがとうございました。給付金があったおかげで大学にも通えて好きなことをしながら大学生活を充実させてもらっています。

今までご支援していただきありがとうございました。

♡お母さまより

この度は完了給付金、図書カードも送ってくださり本当にありがとうございました。

交通事故である日突然主人を亡くし、この先私1人でどうやって子どもたち3人を育てていこうか先の見えない不安で苦しい日々もありましたが、育成給付金のおかげで娘のやりたいことをさせてあげることができました。今は毎日楽しく大学に通いバイトも頑張っています。

今まで長い間ご支援いただき本当にありがとうございました。

## 宮城県
## F・Rさん（母）

この度は入学に伴いまして、橋本給付金のお手続き誠にありがとうございました。2人の息子は4月に中学1年生と高校1年生になります。橋本様のご厚意に深く感謝申し上げて、大切に使わせていただきたいと思います。

夫が亡くなった時、長男は4歳、次男は0歳でしたが、今年は十三回忌となり時の流れを感じます。健やかに成長してくれることを願って、今後も子育てを頑張りたいと思います。ありがとうございました。

## 福島県
## T・Kさん（加入者）T・Kさん（母）

♡加入者さまより

父が亡くなったのは2014年の夏、私は小学校4年生でした。それから9年間お世話になりました。

私は今、専門学校に通いデザインの勉強をしています。今も実家から通学していますが、卒業後は親元を離れ自立できるように頑張りたいと考えています。

節目節目でも大変お世話になりました。

♡お母さまより

夫が亡くなりこれから先どう子育てをしていいかわかりませんでした。一番頭をよぎるのは、学校に通わせられるかな？と不安に思ったことです。警察署でこちらの冊子をいただき不安な気持ちで加入させていただいたのが始まりでした。小学校4年生、中学校2年生の娘2人の学費も節目節目の準備金もとても助かりました。

上の娘も今年から社会人として働いております。加入してから9年間お世話になりました。ありがとうございます。

## 匿名希望さん（母）

この度は、下の子が基金を卒業することとなりました。先ずは長い間ご支援いただきましてお礼を申し上げます。また、節目節目にも様々なご支援があり心から感謝しております。この支援は生活のゆとりはもちろん、何よりも心のゆとりとなりました。

子どもたちは上京し、充実した学校生活を送っています。一人暮らしで大変だとは思いますが、今まで支えてくださった皆さまのことを忘れず少しでも社会に恩返しができるよう、これからも頑張ってほしいと思います。

本当に長い間、たくさんのご厚意に心より感謝申し上げます。そしてこれからも交通遺児支援をどうぞよろしくお願いいたします。

## 愛知県
## K・Sさん（加入者）

育成基金の給付完了のお知らせをいただきました。今までいただいていた給付金を使いながら現在大学に通っています。通学時間の長さと講義の多さなどでバイトなども限られるため助かっています。いただいたお金はこれからも大切に使っていきたいです。

まだ妹が給付いただいていますので付き合っていきますが、ありがとうございました。

## 茨城県
## H・Tさん（加入者）H・Tさん（母）

♡加入者さまより

今年の19歳の誕生日を迎えるまで、大変お世話になりました。この度は図書カードなどいただきありがとうございました。感謝の気持ちを忘れず、社会のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

♡お母さまより

長い間のご支援ありがとうございました。長女は大学生、次女は社会人になりました。これまで基金の方々には助けていただき感謝しかないです。本当にありがとうございました。

皆様のご健康をお祈りいたします。

## 岡山県
## H・Yさん（母）

長男が無事に高校卒業をし、大学入学もでき、基金様も卒業となりました。主人が亡くなった時 警察の方に渡されたパンフレットに載っていたので、正直、よく読まず加入しましたが、給付金や図書カードなどですごく助けていただきました。加入して本当に良かったと思っています。

まだ娘もいるのであと少しお付き合いがありますが、今まで本当にありがとうございました。

## 匿名希望さん（母）

この度は基金完了のお知らせ、図書カード、完了給付金をありがとうございました。

長女・長男が大学生となり、中3の次男のみとなりました。1人で3人の子育ても早いもので丸10年が過ぎようとしています。同じ境遇の方のお便りを拝見し、1人ではないと何度も力をもらいました。

私も、子どもたちもいつか誰かの力になれる人になりたいといつも話しています。

## 長野県
## O・Sさん（母）

いつもお世話になっております。娘の中学入学に際して、橋本給付金と図書カードをいただきまして、ありがとうございました。娘は中学に入ったら、部活に入ることをとても楽しみにしております。新しく始まる学校生活がどのような形になるのかわかりませんが、初めて体験するワクワク感と楽しみを持って臨んでほしいと思います。

育成基金の皆様には、まだまだお世話になることばかりですが、引き続きよろしくお願いいたします。

# となりのレターズ

みんながとなりに寄り添う「もう一つ」のLetterS

今回は、2人のお子さんを育てあげたOさんにお話を伺いました。現在、Oさんは60歳。事故に遭われた当時、お子さんは7歳と5歳で、下のお子さんはまだお父様の死をよく理解できなかったそうです。呆然自失の中、悲しみの日々を乗り越えられたのは、周囲の人たちや、お子さんたちから元気をもらったからだそうです。事故から25年が経った今、これまでの道のりや現在の想いを伺いました。

## 第13回 保護者体験談編　福岡県在住　2人のお子さんを育て上げたOさんの場合

夫が亡くなったのは、会社員を辞めて自営でシクラメンの花づくりを生業にしてから3年目のことでした。通勤の途中で、信号待ちをしていたところに居眠り運転をしていたトラックに追突されまして、即死でした。連絡がなく夫が遅刻をしていることに違和感を持った、夫と一緒に会社を立ち上げたパートナーの方が通勤路を調べて事故のことを発見してくださったのです。事故を知らされてからしばらくの間は、ショックで何も手につきませんでした。ただ、ありがたいことに会社のパートナーの方や実家の両親、義父母が知恵を出して力になってくれまして、民事裁判を行って示談にまで持っていくことができました。

### 子どもに助けられ、周囲に助けられた日々

つらい日々を乗り越えられたのは、一重に応援してくれた周囲の人たちと、子どもがいてくれたからです。当時、長女は7歳、長男は5歳で、長男はまだ人が死ぬという意味がよくわからなかったのですが、長女はショックを受けて泣いてばかり……。私は子育てに対する不安とともに、夫が立ち上げた事業の処理も抱えていましたので、毎晩眠れない日々が続いていました。でも、事業に関してはパートナーだった方がとてもいい人で無事に始末をすることができましたし、子育てに関しては実家の母が闘病中にも関わらず一緒に過ごしてくれて助けてくれました。本当にありがたかったですね――。事故から1年後、母は亡くなってしまったのですが、ご近所の方たちも助けてくださって、私が体調を崩したらご飯を差し入れてくださったり、子どもを預かってくださったりと本当に温かく見守っていただきました。何より心の支えになったのは、子どもたちの成長でした。2人とも反抗期もなく育ってくれまして、長女は英語とダンスに専念して大学生時代は地元ソフトバンクホークスのダンスチームに所属。長男もサッカーに専念して全国大会出場まで頑張ってくれたんです。2人のそうした晴れ姿を観にいくのが、私の大きな励みになりました。おかげさまで、現在は2人とも自立して結婚。孫も生まれています。今後は、できるだけ子どもや孫たち、そして社会と繋がりながら、残された人生を充実したものにしたいと思っています。

### 自分を責めずに、気持ちを切り替えてください

私が基金に在籍している読者の方々にお伝えできることがあるとしたら、自分を責めずに気持ちを切り替えて人生を歩んでいただきたいということですね。そんなふうに思い切っても、多分ふとした瞬間につらくなることがあると思うんですよね。でも、泣きたいときは泣き、つらい思いは人に話してみたらいいと思います。悲しみは決して消えませんが、ある程度は時間が解決してくれると思います。なぜなら、前述したことは、私自身がこれまで実践してきたことだからです。本当に少しずつですが、前を向いて生きる努力をしていった積み重ねが、今に繋がっているんですよね。うす皮をはがすように少しずつ、前へ進んでいっていただけることを心から願っています。

〈編集部より〉

Oさんは下のお子さんが小学生になったのを機に事務職に就き、現在も働いているとのこと。ご友人も多く、旅をしたり、お孫さんに会いに行ったりと充実した日々を過ごしていらっしゃるようです。基金在籍中は、本誌「Smiles」のレターズコーナーが大きな励みになったとのこと。また、私どもが支援している交通遺児対象のイベントへの参加や図書カードのプレゼントも思い出深いと話してくださいました。そのお言葉を伺って、スタッフ一同、とてもうれしく思いました。Oさんの今後のご健勝とご活躍を心から願っています。